

《研究成果の概要》

自己の身体は知覚される対象であり、知覚情報として行動に影響を与える。なかでもヒトの鼻は視野内に恒常的に存在し、視覚的参照点となるため、環境内における自己の定位を助け、姿勢の安定に寄与すると考えられる。しかしながら、鼻と姿勢の関連性はこれまで十分に検討されていない。また、既存のVR研究では、鼻状物体の提示によって定位感が改善しVR酔いが低減することが複数示されているが、いずれも質問紙による主観的評価に基づいており、姿勢そのものが計測されたわけではない。そこで、2024年8月から2025年8月のサバティカル期間に、米国シンシナティ大学に滞在し、「自己の鼻部が見えることは、現実および仮想環境において姿勢の安定性を高める」という仮説の検証を目的とした研究に取り組んだ。

主な取り組みは、論文の作成、実験準備、翻訳である。

論文については、まず今回の研究題目に直結する研究として、サバティカル前に本学で実施した、現実環境において自己の鼻部が見えることと姿勢の安定性の関連を調べる実験で記録したデータをまとめ、英文校閲に提出した。この論文は専門領域の国際誌 *Attention, Perception & Psychophysics* に投稿予定である。また、この論文の結果にもとづいて仮想環境における実験の計画を洗練させることができた。一方で、研究題目とは直接関係しないが、専門とする生態心理学の主要テーマである「ダイナミック・タッチ」に関する解説論文も執筆した。本論文は査読を経てアクセプトされ、2025年7月に国内誌『生態心理学研究』に掲載された。

実験準備については、滞在先のHuman Performance Labの設備を活用し、仮想環境における自己の鼻部と姿勢制御の関連を調べるために、Mixed Reality(MR)環境構築やMRとモーションキャプチャの機材同期を進めた。実験実施は次年度以降となるが、本研究の重要変数に関して日本人とアメリカ人で異なる特徴があると考えられることから、日米で実験を実施し比較する計画を立てており、今後シンシナティ大学での実験を予定している。

翻訳については、生態心理学の理論的基盤をなす代表的著作『The Ecological Approach to Visual Perception』の新訳版に分担者として取り組んだ。本書は2026年に刊行予定である。

以上のように、論文執筆・設備を活用した実験準備・重要文献の翻訳に取り組み、サバティカル期間を通じて研究の進展に結び付く成果を得ることができた。